

# ふくい暮らし

「亡き母」へ 乳呑児の私を遺(のこ)して逝ったお母さん、明日は80回忌で、私はもう81歳になります。  
 台湾・台北市 林 聿修さん 81歳  
 お断り 坂井市丸岡町「第9回新一筆啓上賞」掲載は今回で終  
 16歳 わり27日から「第13回文殊山俳句賞」の入賞作品を掲載します。

## 質感求める思い 強く

大きなローラーが連なる機械から、越前和紙が紡ぎ出されていく。もっ  
 と良い紙ができないか。手がきから機械化して規  
 模を拡大。「バブル期に  
 毎日が勉強です」。紙を  
 光にかざし、出来栄を  
 確かめながら、山田兄弟  
 製紙(越前市不老町)の  
 四代目社長、山田晃裕さ  
 ん(41)はほほ笑む。  
 千五百年の歴史を誇る  
 越前和紙。山田さんの製  
 紙会社は、創業から百三  
 だ。バブルが弾けた直後

### 老舗物語

しにせものがたり

#### 山田兄弟製紙4代目 山田晃裕さん

で、受注は激減し、同業者間の競争が激化。追い打ちをかけるように二〇〇四年、株券の電子化が決まり、売り上げの三分の二を占めていた主力製品を失った。

だが、新たな光も見え始めた。知人の勧めが、毎年刈り取らない

リンや窒素を吸収し、水をきれいにするヨシだ

で、〇一年から手掛けて、数が減少してしま  
 いたヨシ紙。大阪府高槻市。環境保全のボラン  
 市の淀川河川敷に広がるティアをする気持ちで始  
 鶴殿ヨシ原のヨシを加工めた。環境意識の高ま  
 し、木材パルプと混ぜてりとともに、当初はほと  
 作和紙だ。すき方を工んど売れなかったヨシ紙  
 夫し、繊維が細くて短い製品に、「社内封筒に使  
 ヨシを使って、インク「触り心地  
 シェットプリンターに耐い込んだ。  
 〇四年、株券の電子化がえ得る強度を実現。便せ  
 決まり、売り上げの三分の二を占めていた主力製  
 品を失った。

が、新たな光も見え始めた。知人の勧めが、毎年刈り取らない



① 真剣な表情で和紙の仕上がりを確認する4代目の山田晃裕さん  
 ② 和紙製造の大型機械が並ぶ工場内。いずれも越前市の山田兄弟製紙で



【あゆみ】18  
 15)年に晃裕さん  
 当たる7代目山田  
 業。昭和初期には  
 ら紙幣製造を受注  
 にふすま紙をすき  
 954(昭和29)  
 だった工場を機械  
 紙の需要増に応じ  
 張し、現在の広さ  
 0平方メートル。200  
 国の製紙メーカー  
 シを使った和紙作  
 んでいる。

